

くつろげる美術館

伊藤 紫苑 (いとう しおん)
千葉県立市川工業高等学校 建築科



くつろげる美術館

設計主旨 エントランスを入ると直線に長く続くホール。また、ところどころに設けられている休憩所が、疲れと静にくつろげるスペースにした。1階部分には主に展示空間にして、メインである展示空間は二階を吹き抜けにより広々と、開放感のある空間にし、二階から下を見、地域のイベントなどでも利用可能。本館とは別にアトリエを別棟に設けておち展示空間を観覧することができる。そして、二階には多目的室があり、様々な用途で、そこで、地域のひとが彫刻や、絵画の体験ができる。

市川市の美術館近くに隣接する土地を利用、交通機関の利便性を運び敷地に考慮した。



講評

美術館を親しみやすく、癒しの場として計画した作品である。既存の美術館のプラン、機能性をとてもよく調べ、そこから得た情報を生かして平面、断面計画をまとめた力作。

メインの動線とその所どころに計画された休憩スペースを軸に、回遊性と縦動線が上手く考えられた空間構成がとても良い。吹き抜けを効果的に利用し、多目的室、レストランを魅力ある場所に配置されている点も評価できる。きちんと搬入路を計画し、更に市民が美術を体験できるアトリエを別棟に提案しているのも配慮に長けている。また各室の大きさ、階段や廊下の幅、トイレプランなど随所に現実的な計画ができています。美術館の設計課題は大学でも多く出題されるが難しい課題でもある。高校生がこれだけの計画ができることに正直驚かされた。できれば、敷地周囲との関わりをもう少し表現できると、もっと市民に開いた美術館として魅力が増したと思う。

この力作を計画できた作者だからその成長がとても楽しみである。よりたくさんの方の建築、まちを観て、自分の建築感を持って進んで欲しいと願う。

(審査委員：飯沼 竹一)

